



と無理をして、やっと予算書が作成された。担当課が一生懸命考えたこと、私が執行方針で言ってきたことでマッチングするものに対しては、予算付けとなった。
植村委員 職員採用についての考え方は。
野々村町長 新しい職員を定期的に育てていかなければ、中間が抜けてしまう。今、優秀な職員の中で中堅職員を育てていただいで、この後に続く職員づくりを今後考えて行くべきと自負する。

地域の課題をとらえて 2氏が一般質問



西澤 裕之

町政執行方針について聞く

質問 幌延深地層研究センター及び幌延地圏環境研究所は、地方版総合戦略にとって鍵となる施設だと考えるが、町長の見解は。

町長 そう認識している。「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に盛り込む施策等の検討にあたっては、様々な面において両研究機関も考慮しながら策定を進めて行きたいと考えている。

質問 福祉事業者が少なく、サービスも限られた本町において、在宅高齢者が抱える問題にどう対処しているかが課題となっている。高齢者が住み慣れた地域で住み続けるために、地域包括支援センターの重要性とその果たす役割は大きくなっており、対策が必要だと考えるが。

町長 今後、力を入れていかなければならない課題であると認識している。高齢

者の在宅福祉サービスは、社会福祉協議会と地域包括支援センターが両輪であると考えている。どのようなサービスが望まれるのか、関係機関と協議しながら充実に通う世帯への支援、下宿や寮等への支援など、高校生世帯まで子育て支援を拡充する考えはないか。より安心して子供を産み育てられる環境を整えることで少子化対策に繋がり、また定住や移住の可能性も考えられることから、結果的に人口減少問題の解決策の一例になると考えるが。

町長 今後策定する「幌延町まち・ひと・しごと総合戦略」において、住民や関係機関からの意見を幅広く伺いながら、定住や子育て施策の1つとして検討していく。

質問 住宅の確保・供給と、空き地・空き家の対策は。
町長 空き地・空き家対策については、喫緊の課題であると認識している。国や各自自治体から提供されるサービス等、様々な先行事例を参考に取組んでいきたい。

住宅等に関する定住施策については、これまで実施した施策の成果を十分検討し、状況に応じた施策を総合戦略に盛り込んでいきたいと考えている。



学舎を後にする問寒別中の卒業生